

寄附講義「会社研究」 第8回目（第9回）

令和2年7月8日 13時10分

講師 大分商工会議所会頭

株式会社 アステム 代表取締役会長

吉村 恭彰 氏

テーマ 学生の皆さんへ商工会議所の紹介

オンライン講義で吉村会頭は、商工会議所とは何か、日本社会が直面する課題、これから社会に出る学生への言葉と、三つの柱でお話されました。



（商工会議所の紹介）

国内に360万ある企業のうち99.7%は中小・小規模企業で、都市にある中小企業を会員とするのが商工会議所であること、日本で最初に商工会議所を設立した渋沢栄一が「論語と算盤」で説いた“社会の利益になる仕事”の精神で実施している大分商工会議所の業務を説明されました。

（人口問題）

日本が直面する課題としてまず挙げられたのが人口問題

です。第一次ベビーブーマーが後期高齢者になる“2025年問題”が注目されているように、年金・介護・医療の社会保障制度が危機を迎えます。合計特殊出生率が2.0を超えても避けられない人口減少下では、高齢者が増加し働く世代が減少します。クオリティ・オブ・ライフを如何に維持するか。

（技術革新）

一方で、加速化する情報処理革命で雇用環境は激変し、生産性革命により競争環境も変わります。経営者にはビジネスモデルの転換が求められます。

（グローバル化）

グローバル化の進展は、今回の新型コロナで全世界を同時にパンデミックに陥れ、インバウンド偏重のリスク、グローバルサプライチェーンの脆弱性が露になりました。アフターコロナの時代には国際分業を見直してグローバル化のリスクを避ける方法を探らなければなりません。



（会社経営にあたって）

何のために事業をするのか、事業の目的を明らかにする経営理念が重要です。

「The Buck Stops Here」トルーマン大統領が机に掲げていた言葉です。重みに耐えて最終決断をするのが経営者です。

（社会に出る学生に）

会頭が学生に贈った言葉からいくつか。

- ・ オープンマインド
- ・ **Think Local Act Global**
- ・ 虚心坦懐
- ・ 無用の用を大切に、何事にも関心を持つ
- ・ 常に明るくタフであれ

「菜根譚」や「サピエンス全史」からの引用など、常に世界の知を吸収してご自分の生き方につなげる吉村会頭の姿勢が学生に強い印象を与えた講義でした。

ご多忙な中ご講義くださり、ありがとうございました。